



## ◆ 学習指導要領と学習評価について② ◆

Ital 通信 189 号で、現行の学習指導要領の理念と子どもたちの学びについてお伝えしました。今回は、現行の学習指導要領における学習評価の考え方についてお知らせします。

各教科の評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で全教科統一されています。

### ■「知識・技能」の評価について

学習の過程を通して習得した知識・技能を既有的知識・技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。これらは、ペーパーテストや実際に知識や技能を用いる場を設定し評価することになります。

### ■「思考・判断・表現」の評価について

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。これらは、論述・レポート・発表・作品制作等、考えを表現する場や思考・判断する場を設定し評価することになります。

### ■「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価するものです。これらは、ノートやレポートの記述、授業中の発言、教師による行動観察など、考えや思いを表出させる場を設定し評価することになります。

【参考】児童生徒の学習評価の在り方について(文部科学省)

上記の3観点による学習評価は、「観点別学習評価」と呼ばれ、A、B、Cの3段階で評価を行うこととされています。そして、この観点別学習評価を総括して「評定」を5段階(5・4・3・2・1)とすることになります。

### ■観点別学習評価の留意点について

観点①「知識・技能」と観点②「思考・判断・表現」は、相互に関連はするものの、それぞれ異なった評価と捉えることになります。観点③「主体的に学習に取り組む態度」は、観点①「知識・技能」と観点②「思考・判断・表現」との関連において評価するとされています。

また、各教科の特性があることも留意して評価するとされています。例えば、保健体育科の運動に関する領域では、「公正」「協力」等を育成する「態度」と位置付けられていますので、単に運動能力が高いというだけで評価するということではありません。

### ■評定の留意点について

評定への総括は、学校や教科によって異なります。例えば、観点別学習評価の「A」を「3点」、「B」を「2点」、「C」を「1点」として総括し、5段階の評定に振り分けるという方法があります。その際、「BBB」であれば「3」を基本として、「AAA」であれば「5」、「CCC」であれば「1」とするのが適当であるとされています。 【参考】国研『学習評価の在り方ハンドブック小・中学校編』

令和元年6月 / 国研『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』令和2年3月

■ある夏の思い出■45年前、高1の夏休み、彦岐の筒城浜海水浴場でキャンプした■暗くなった砂浜でFMから高中正義の「SpaceWagon」が流れてきた■その時の感動は今でも忘れない■その年、唐津で開催された高中のLIVEに行った■先日45年ぶりに高中のLIVEに行った■感動がよみがえった！(イタル)